

第４回公安委員会定例会開催状況

１ 開催日時

令和７年２月１３日（木）１３時３０分～１７時０５分

２ 決裁事項

（１）免許の取消し等

警察本部から、免許の取消し事案及び欠格期間等の処分について報告を受け、決裁した。

（２）苦情の受理

警察本部から、苦情の受理について報告を受け、決裁した。

（３）審査請求の裁決

警察本部から、審査請求の裁決について報告を受け、決裁した。

（４）苦情の調査結果

警察本部から、苦情の調査結果について報告を受け、決裁した。

（５）特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長

警察本部から、特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長について報告を受け、決裁した。

（６）警察職員の援助要求

警察本部から、警察職員の援助要求について報告を受け、決裁した。

３ 報告事項

（１）令和６年年間功労警察職員（MVP）表彰受賞者の決定

警察本部から、

- 年間功労警察職員（MVP）表彰は、警部補（同相当職を含む。）以下の警察職員を対象に、年間を通じて抜群の功労があった者に対して警察本部長が行う表彰で、毎年、各部１人（地域部は３人）が受賞しており、令和６年の表彰受賞者は警察官８人である。

- 表彰式は、２月１８日（火）、警察本部において開催する予定である。

旨の報告を受けた。

委員が、

「若手警察官のモチベーションにつながると思う。MVPを目指して職務に励んでいただきたい。」

自信と誇りを持った警察官になることを期待している。」
旨を発言した。

(2) 令和7年度犯罪被害者等施策の展開

警察本部から、

- 犯罪被害者等のニーズに応じ、複数の機関・団体が持つ、利用可能な全ての制度・サービスを包括して漏れなく届け、利用時の負担軽減にも資することを目的として、個別事案の支援に際し、必要とされる複数の機関・団体による多機関ワンストップサービス体制を構築する。
- また、カウンセリングの充実を図ることを目的として、公認心理師等の資格を有する者（受験資格基準を満たす者を含む。）を心理支援官（警察官）として選考採用する。

旨の報告を受けた。

委員が、

「公認心理師は、活躍の場が限られていたり、非常勤勤務で複数の職場を掛け持ちしていることもあると思う。心理支援官として採用することにより、活躍の場が広がると思う。

息の長い支援、切れ目のない支援が大切であると思う。心理支援官採用により、犯罪被害者等に対する支援を充実したものにしていきたい。」

旨を発言した。

(3) 犯罪抑止総合対策推進状況（1月）

警察本部から、

- 令和7年1月末の刑法犯認知件数は723件と、前年同期比78件（12.1%）増加した。
- 「刑法犯の割合」は、窃盗犯が497件と、全体の約7割を占めており、窃盗犯のうち認知件数の多い順は、自転車盗、万引き、車上ねらい、空き巣、オートバイ盗となる。県警察では、貴金属買取店に対する強盗事案の発生を受け、貴金属買取店に対する防犯指導を実施したほか、岡山県自動車盗難等防止対策協議会と連名による乗り物への鍵掛けを呼び掛ける広報チラシを作成した。
- 「特殊詐欺認知状況」は13件と、前年同期比9件増加、被害額は約3,410万円と、前年同期比約2,600万円増加した。1月中、警察官をかたるオレオレ詐欺の被害を多く認知したことから、SNS等を活用して広く注意を呼び掛けた。
- 「SNS型投資・ロマンス詐欺認知状況」は13件と、前年同期比1件減少、被害額は約8,400万円と、前年同期比約920万円減少した。SNS型投資・ロマンス詐欺については、引き続き継続的な広報を行い、被害防止に努めていく。

旨の報告を受けた。

委員が、

「特殊詐欺については、ネットバンキングの利用者が狙われており、高齢者以外の世代も狙われやすい環境になっているということを注意喚起することが重要であると思う。

犯罪抑止については、従前どおりではない対策を取る必要があると思う。犯罪動向を12か月の移動累計で見るなど、統計的な工夫を行いながら動向を把握していただきたい。」

旨を発言した。

(4) 重要事件認知・検挙状況（1月）

警察本部から、

- 令和7年1月末の重要事件認知件数は14件と、前年同期比8件増加、検挙件数は不同意わいせつ事件、不同意性交等事件及び強盗致傷事件等12件と、前年同期比6件増加した。
- 検挙率は85.7%で推移している。

旨の報告を受けた。

委員が、

「指紋や画像処理等の科学捜査により犯人を検挙することは素晴らしいと思う。凶悪犯罪を検挙することは県民の安全・安心につながると思う。

性犯罪の増加は、新法が成立したことにより、これまで泣き寝入りしていた被害者が被害を届け出ているという状況もあると思う。高い検挙率は一番の犯罪抑止になると思う。」

旨を発言した。

(5) 岡山少年院における匿流・闇バイト防止教室の開催結果

警察本部から、

- 匿名・流動型犯罪グループ（以下「匿流」という。）といわゆる闇バイト対策が新たな治安対策上の脅威となっている現状を踏まえ、岡山少年院と協働し、同院において、暴力団情勢や匿流と闇バイトの実態等について教養を実施するとともに、匿流や闇バイトに関する認識と体験実態などを調査するため、入所少年に対して警察官が個別インタビューを実施した。
- 2月4日（火）、岡山少年院において開催し、入所少年（14歳から21歳）47人のほか、岡山少年院法務教官等計68人が参加した。

旨の報告を受けた。

委員が、

「入所少年に対するインタビューは、本音の話を聞くことにより、実態把握につながっており、大きな成果であると思う。

入所少年から時間を掛けて話を聞いていただいたことは良い取組であると思う。入所少年の再犯率を下げていくことは、犯罪抑止につながると思う。」

旨を発言した。

(6) 交通事故発生状況（1月）

警察本部から、

- 令和7年1月末の総事故件数は3,979件と、前年同期比82件増加、そのうち人身事故は423件と、前年同期比34件増加した。
- 1月中の交通事故による死者は3人で前年同期比同数であり、1月中に発生した死亡事故は3件中2件が車両単独であったほか、自転車の用水路への転落事故が1件、3件中2件が夜間の発生であった。
- 交通事故抑止対策として、地元企業（株式会社天満屋）に所属する女子マラソンの

前田穂南選手を起用した交通安全啓発動画等を制作したほか、一般社団法人日本損害保険協会中国支部から、交通安全啓発ポスター等の寄贈を受けた。
旨の報告を受けた。

委員が、

「用水路への転落防止については、対策を講じる必要のある箇所が多数あるため、まずは自転車運転時の注意を促すことが必要であると思う。

シートベルトの着用や自転車乗車時のヘルメット着用により、死亡事故を防ぐことができるということを伝えていくことが大切であると思う。」

旨を発言した。

(7) 人事評価

警察本部から、人事評価について報告を受けた。

(8) 人事案件

警察本部から、人事案件について報告を受けた。

(9) 受験期における痴漢事犯対策の実施状況

警察本部から、受験期における痴漢事犯対策の実施状況について報告を受けた。

4 次回公安委員会

令和7年2月27日（木）13時30分から開催予定